

大連・旅順・瀋陽探訪 その2 (南賢司)

さて2日目(9月1日)です。当初の予定を変更し、2日目は瀋陽に旅立つことになりました。朝食は宿泊費に含まれていたのととりあえず食堂に行ってみます。まあ、予想通りの食事でした。味もそっけないおかゆ、味もそっけないマントウ、そしてそろそろのもの。少しでも中国で生活してみれば、この朝ご飯が典型的であることは分かります。でもねー、味のしないおかゆを大量に食べていると段々気分が悪くなるのです、私は。だから、3日目と4日目は“太陽系”で買ったパンを食べることにしました。

何とも言えず不満足な気持ちの中、大連駅へ向かうことにします。電車のことについてですが、前回よりもう少し細かい話をしておきましょう。中国で電車に乗る場合には、荷物検査が必須です。飛行機に乗るときに自分の荷物をベルトコンベアーに乗せながらX線が出そうな箱の中を通しますよね。あの作業を、電車に乗る前にやらなければなりません。何だったら、大きめの本屋さんでもそういうことをやらされます。ですので、荷物検査の列で費やされる時間を考えると、電車出発の1時間前には駅に到着しておく方がいいのです。早めに荷物検査を終え、待合室に入ったら、簡易版のコンビニみたいな購買部があるので、パンなりカップ麺などを買うことにすればいいと思います。私が乗る予定の電車は8時42分発だったので、7時45分には駅に到着しておかなければなりません。朝ご飯や駅までの時間を考慮して6時起きとなりました。昨日歩きすぎて体中筋肉痛なのに、さらに早起きでかなりつらかったです(泣)。

おそらく2時間半ぐらい電車で揺られていると目的の瀋陽駅に到着しました。瀋陽はかつて奉天と呼ばれていた都市で、奉天郊外の柳条湖において中国軍に南満州鉄道の一部が爆破されたということを口実に関東軍が満州を制圧していった満州事変勃発の契機ともなった都市です。私の大学・大学院時代の研究テーマは日中戦争史であったので、こういう史跡を訪れることにやはり価値を見出してしまいます。瀋陽駅付近もかなり開発されて発展していることがうかがえます。ひとまず張氏師府博物館へ向かって地下鉄と徒歩で行くことにしました。張氏師府博物館は、張作霖や張学良の官邸兼私邸であったところで、今は博物館として訪れることができるようになっています。



ごくごく一般的な中国の朝ご飯



G8045 は5番の検票口からの瀋陽行



待合室の中



ほんとに新幹線みたいでしょ



瀋陽駅(中国語表記では沈陽駅)



駅付近



地下鉄へ降りる階段にて(中国らしい広告)
※超市=スーパーマーケット



“おっとっと” みたいなマークがいいですね



地下鉄



地下鉄の切符(おしゃれ一☆)

さて、地下鉄に揺られること 15 分くらいで「中街」という駅に着きました。ここからは歩いて張氏師府博物館へ向かいます。道すがら、センスあふれるマネキンと資料集で見たような風景を目にすることができました。前回のセンスあふれる遊具とか、今回のセンスあふれるマネキンとか見続けていると、段々と中国に興味を持ち、そして魅了されてきたでしょ(笑)。



センスあふれるマネキン 1



センスあふれるマネキン 2



城門



満州事変で瀋陽に入る関東軍

歩いているうちに、満州事変で関東軍が瀋陽に入るシーンとして資料集などに載っている写真と同じような場所に遭遇しました。これはテンション上がりますよね～。たぶん城門の上に上がることはできると思います。西安を訪れた時には城門に上りました。今回は時間がなかったので門のそばには行っていません。そして 40 分くらい歩いたところに張氏師府博物館へ到着。いきなり目に飛び込んできたのは張学良將軍の巨大な像でした。世界史勉強している人はきっと張学良將軍のイメージいいですよ。日本軍が中国に攻め込んできているのに、中国の中で共産党軍と国民党軍が相争っていて、“このままじゃ中国が終わってしまう”と考えて、その現状を打破するために生死を懸けて蒋介石を西安で軟禁するという行動に打って出ましたからね。結果的に共産党軍と国民党軍が一致団結して第二次国共合作を成し遂げ、日本軍が敗北する一原因ともなりました。どうでもいいですけど、私は、有名な像の後姿を撮ることが好きです。資料集には載っていない別な面を独り占めできる気がするからです。今回気づいたのですが、張学良將軍の後姿が山本みつを先生の後姿にそっくりなのです。あのダンディーな立ち方は実は張学良將軍から影響を受けていたのかもしれない(笑)。



張学良將軍(正面)



張学良將軍(後ろ)



部屋の風景



再び張学良將軍の銅像



説明してくれる服務員



張氏師府大青樓

ひとしきり張学良將軍に思いをはせた後は、瀋陽故宮博物院に向かうことにします。この故宮博物院は清朝黎明期の宮殿だそうで、清朝建国の礎を築いた太祖ヌルハチや、第二代皇帝である太宗ホンタイジも実際に住んでいたそうです。



瀋陽故宮崇政殿



瀋陽故宮大政殿



瀋陽故宮博物院(入ってはいません)



瀋陽故宮鳳凰樓



ブライダル写真を撮るのが流行中



ふぁっさ〜(超劇的瞬間!!)

故宮をしっかりと堪能できたので、本日最終の目的地である昭陵に向かうことにし、再び地下鉄の中街まで戻りました。一応、街の風景を載せておきますね。道路の真ん中で泣き崩れる老女がいて、車にひかれそうになっていて大変でした。息子さんが抱き上げようとしても一向に動かないのです。何があったか分かりませんが、警察でも処理しきれていない感じでした。



中街駅付近のストリート



吉野家を発見



週末はいろんなイベントがあります



道路中央で泣き叫ぶ老女に注目が集まる

あつ、ちなみに昼ご飯はまたしても中街付近のマクドナルドです(有名な老辺餃子館に行ったんですけど、週末であまりにも長蛇の列ができていたのであきらめました)。今回はダブルチーズバーガーセットです。でも、このマクドナルドの店員がほんとに社会主義を貫いていて腹立ちました。当然列に並んで待っていてようやく自分の番が回ってきました、って思うと、急に店員さんが奥の方に下がってしまって、私一人取り残されてしまいました。で、隣の列はずーっと進んでいくんです。自分の前にいた店員さんが戻ってくるかもしれないと、5分ぐらい待っていたのですが一向に帰ってこない。しかも、横の列の店員さんは、私が手持無沙汰で長い間待っているにもかかわらず、「隣の方こちらへどうぞー」とか言ってくれないのです。視界の中に入っていないながら、私を助けようともしません。自分のノルマ以上のことはやりたがらない社会主義丸出しじゃないですか。このままでは注文もできないので、でっかい声で「ウォー」と叫んでやりました。言っておきますが、乱心したわけじゃないですよ(笑)。「ウォー」とは「我」の発音で、「俺わい!?!」みたいな気持ちを込めて発音したまでです。そしたら、隣の店員さんがやっと対応してくれて、横で並んでいた高校生とかも“なんなんやこいつ気持ち悪いな〜、しゃあないから先に注文させてやろうぜ”みたいな薄ら笑いを浮かべていました。でも、こんなことにめげてはいけません。中国に行けば多かれ少なかれ、こうした中国人とのプチバトルが待っています。そう、中国は“万人の万人に対する闘争”が行われるリヴァイアサンの広がる世界なのです。この戦いを避けていては中国で生きていけないことも肝に銘じておいてくださいね。何のアドバイスか分からなくなってきました(笑)。

それでは昭陵の話をししましょう。昭陵とは、清朝第二代皇帝である太宗ホンタイジの陵墓のことです。総敷地面積 330 万㎡にも及ぶ広大なお墓です。中に入ると、お墓に向かって伸びる長い神道(道のこと)が伸びており、神道の両脇には、獅子・麒麟・馬などの石獣が対になって並んでいます。石獣の中でも最も著名なのが石馬で、ホンタイジの天下争奪の際、活躍したという伝説があります。神道からさらに北に行った場所にある方城が、昭陵の中心地であるお墓に当たります。正門に隆恩門、四隅に角楼を有しています。



昭陵



昭陵の入り口



道のりは遠く…



綿菓子の販売



蓮の浮かぶ綺麗な池



観光用のちょっとした自転車



なぜかお面が販売されていました



帰り道はこれに乗りました



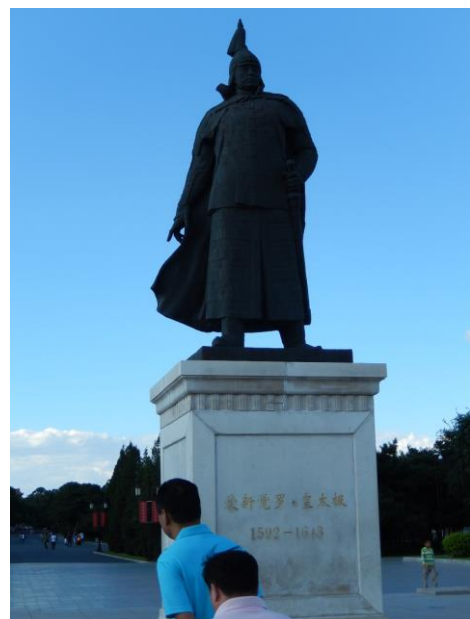
神道



著名な石馬(足、短くない??)



方城の正門である隆恩門



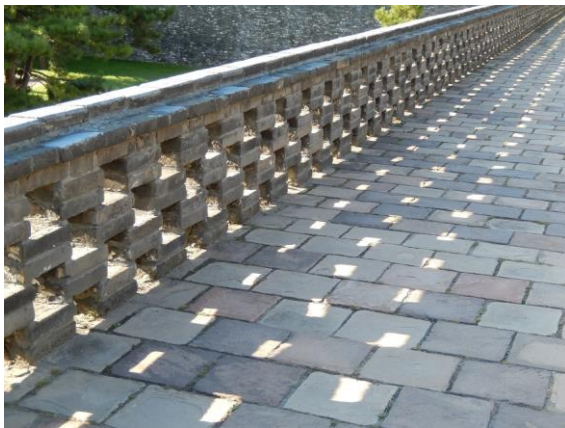
ホンタイジ像



方城の中の月牙城



宝城の中の宝頂(ホンタイジが眠る)

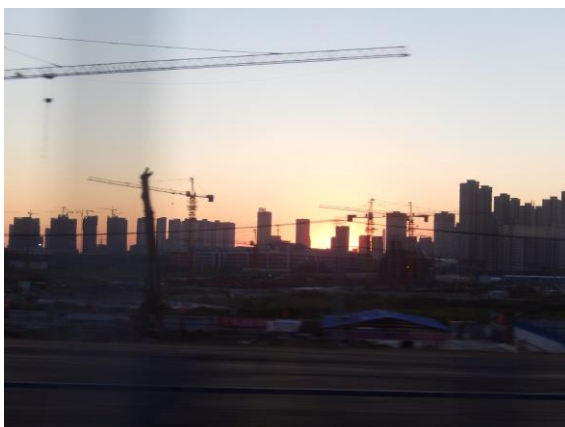


木漏れ日



おひとり様

ホンタイジが眠るお墓を見ることができたので、瀋陽での目的は達成できました！帰りの電車の時間が迫っていたので、入り口までは歩かずに簡易的なバスに乗って戻ります。また地下鉄に乗り瀋陽駅に行き、大連へ戻りました。晩御飯は相変わらず大江戸。今回はカレーライスにしました。無難な料理は安心です。次回は、旅順一日旅をお送りします。ではまた！



沈陽から帰る車窓から臨む沈む夕陽



晩御飯はやっぱり大江戸！